

令和 6 年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 5 7 ） 学校名 豊田市立道慈小学校

1 テーマ

ふるさと小原のよさを学び、未来につなぐ子どもの育成  
～道慈ふるさと学習を通して～

2 ねらい

- ・小原の地域資源（ひと・こと・もの）を生かした活動を通して、小原の人たちの地域への思いに触れたり、小原のよさを発見・理解したりし、「ふるさと小原」に愛着をもち、将来の小原について考えようとする子に育てる。
- ・小原の伝統文化・芸能（小原和紙・小原歌舞伎）を体験し、それらを誇りに思う気持ちを高める。
- ・小原の気候を生かした作物を育てる活動を通して、自然の豊かさに気付き、自然を守ろうという気持ちを高める。

3 活動内容

- ・全学年が自分たちで選んだ野菜を栽培し、収穫の喜びを味わう。
- ・全学年で伝統工芸である和紙作品を制作する。6 年生は五平餅、4 年生は和紙について詳しく調べ、衣丘小学校との交流の場（5 月）で発表する。
- ・小原歌舞伎を 3, 4 年生が上演し、他学年がそれを鑑賞する。
- ・5 年生が米作りの体験を通して、農業・特に米作りの大変さや面白さを実感する

4 成果と課題

- ・和紙制作は、今年も地元の和紙作家さん等を講師として毎時間来ていただき、児童にも担任にも専門的に指導助言してもらった。4、5 年児童は講師のアドバイスで「いままでで一番いい作品ができた」と喜んでいた。
- ・歌舞伎は、3, 4 年生が小原歌舞伎保存会の方の指導で、歌舞伎独特のセリフ回しや所作を学んだ。
- ・米作りでは、講師の方の田んぼを借りて支援していただいている。5 年生は、体験と強さん（講師）の話から「米作り農家の大変さを実感した。しかし、楽しかった」と振り返っている。
- ・各学年の野菜作りについては、多くの種類の野菜と一人一つ以上の種類を育て、収穫し、家庭にも持ち帰ったり調理実習をしたりした。
- ・体力向上補助指導員を配置することで、専門的な目と知識で体育の授業時教員に助言をいただいたり個へアプローチしてもらったりし、子どもたちへの個別指導を充実させることができた。
- ・校内整備員を配置することで校地内・通学路の整備がスムーズに進み、児童の安全を確保できた。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページや学校だよりや学年だよりで各学年の苗植えや収穫、和紙や歌舞伎の取組を紹介した。
- ・和紙制作の時間を 6 月に授業公開した。歌舞伎も 11 月の授業参観で披露した。

令和 6 年度特色ある学校づくり推進事業報告書

【国際交流・都市と山間教育交流】※どちらかを○で囲む

学校番号 ( 5 7 ) 学校名 豊田市立道慈小学校

1 テーマ

小原・道慈のすばらしさを知らせ、それぞれの地域の特徴を学ぼう  
～衣丘小学校との交流活動を通して～

2 ねらい

- ・伝統工芸である小原和紙の作り方と小原の郷土料理の一つである五平餅の作り方を相手校の児童に教えることを通して、小原和紙や五平餅について再認識するとともに小原の文化への誇りをもつ。
- ・1～4 年生は衣丘小学校の「みかん祭り」に参加し、みかんの収穫までのお世話についての説明を聞き、ともに収穫することで収穫の喜びと育てる苦勞を感じる。
- ・1～4 年生は衣丘小学校の授業に参加することで「大人数の授業」を体験するとともに、自分の考えを堂々と発表する力を育てる。

3 活動内容

- ① 5 月、衣丘小学校の 4 年生が来校した際、本校 3 年生は道慈小のおすすめスポットを調べてオリエンテーション形式で説明、4、5 年生が和紙についてプレゼンテーションをし、和紙制作体験で手伝った。また、6 年生は五平餅の作り方を実演しながら説明して、小原の五平餅のおいしさを体験してもらった。
- ② 11 月、1～4 年生と特別支援学級の児童が衣丘小学校を訪問し、みかん祭りについて説明を受けたりみかん狩りを体験したりした。また、衣丘小学校の 1～4 年生と特別支援学級に、それぞれの学年・学級に分かれて入り、大人数の授業を体験した。1 クラス 30 人以上の慣れない学級の中で、多くの児童が発言したり、相手校の子に積極的に話しかけたりしていた。

4 成果と課題

- 3～6 年生は和紙や五平餅、道慈小のおすすめ箇所について調べたことで、小原の自慢について理解を深めたり、他地区との違いを認識したりし、自分たちの地区を誇りに思うことが一層強まった。
- 1～4 年生は小規模校と大規模校との違いを体験し、いろいろな学校があることを学ぶとともに、自分たちの学校のよさを再確認することができた。
- 今年度も五平餅づくりや和紙制作等で保護者ボランティアに手伝ってもらったことができ、参加者から「子どもたちが誇らしげに説明している姿を見られてよかった」という声をいただいた。子どもたちの外部に対する発表する力がついた。
- ▲ 本校全校児童 55 名が相手校約 100 名の児童に 1 日で和紙と五平餅を体験してもらうには、準備もおもてなしも大変であった。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・学校だよりや学年通信、ホームページで、5 月と 11 月に衣丘と交流の活動を紹介した。
- ・6 月の授業参観で、和紙を制作している様子を見ていただいた。